

「教育活動評価」結果に見る考察

1. 学校運営について

1) 調理科

- よい評価のレベルが保護者と生徒で違いが大きい。生徒のよい評価も保護者と同等になるようにしたい。

2) 介護福祉科介護福祉士養成コース・介護員養成コース

- 生徒よりも保護者の方が満足度が高い。日頃の生徒の活動等をよく理解している結果であると思う。

3) 普通科情報表現コース

- 生徒より保護者の満足度が全般的に低いことから、学校とのつながりをより求めていると思われる。

4) 普通科デザインアートコース

- 「いじめ・暴力について」「学校の通信だより」は保護者からの満足度が高かった。プリントなど家へ持ち帰り話し合えていると思われる。

5) 普通科総合コース

- 昨年度の集計では、全体と違う傾向の項目がいくつかあったが、今年は全体とさほど変わりはない。
- 学校の通信便りについては、特に保護者の評価が高い。コース通信やクラス通信などをけっこう生徒は持ち帰っているのかもしれない。
- 指導助言について生徒の「よくできた」が全体より高い。日常的な教員との触れ合いが出来ているため、生徒指導における早期発見と早期指導に結びついていると思われる。

6) 普通科健康スポーツコース

- 保護者へは理解が得られているが、生徒個々の状況を踏まえ、一層の努力をしていくべきである。

7) 進路指導部

- 進路 NEWS 配布、学校ホームページ随時更新により、内外に進路指導の進捗状況を発信した。来年度はタイムリーな情報をこまめに提供していきたい。

8) 生活指導部

「いじめ・暴力について」

- 教職員の評価と生徒、保護者の評価に開きがある。
- 見えないところでのいじめ・暴力があると捉える。
- 生徒一人ひとりとの挨拶、会話、関係づくりを更に深め、安全、安心で心地よい学校環境づくりに務める必要がある。

9) 募集業務部

- 保護者の理解が概ねあることが読み取れるので、広報担当としては安心できる。その一方で、生徒たちが目指す学校像や生徒像を知らないままで学校生活を送っているのは問題である。

10) 総務部

- 生徒および保護者に関して、昨年度よりもAとBの回答数が減っており、震災から月日が経つにつれてそれぞれの意識が薄れていくことが推測されるので、個人やご家庭、地域など、災害に対する意識や備えの再確認を毎年行うことが必要と感じる。
- 学校として災害発生時の体制が整ったので、細かな部分について協議し調整していくことが今後の課題と考える。

11) 保健厚生係

- 学習環境の整備について生徒の全体の達成度は、「ほぼできた」と「ややできた」で過半数であった。健康スポーツコースでは、清掃ボランティア活動も行っており、達成度が高かった。
- 相談・助言については、他の項目に比べ生徒の満足度がやや低く改善の余地がある。改善に向けては具体的な分析が必要であるが、生徒の要望に答えられるよう早急な対策が必要である。
- 基本的な生活習慣について、できなかったと答えた生徒について細かな分析とそれに対する指導方法の検討が必要と思われる。

2. 4つの重点目標について

1) 調理科

- よい評価のレベルが保護者と生徒で違いが大きい。生徒のよい評価も保護者と同等になるようにしたい。

2) 介護福祉科介護福祉士養成コース・介護員養成コース

- ・保護者はよく理解しているようだが、生徒は科の特性をよく理解していない傾向がある
キャリア教育やインターンシップなど、言葉自体をよく理解していない可能性はあるが、
卒業生の進路等を丁寧に話し、授業が進路に直結していることを伝えていきたい。

3) 普通科情報表現コース

- ・「礼儀作法・生活マナーの向上について」の保護者の評価が生徒より低い。家庭での生活も含めた礼儀・マナーの習得に課題があると思われる。

4) 普通科デザインアートコース

- ・授業の進め方に理解を示し、特に専門科目の学習に対する満足度は高いと思われる。
- ・欠席、遅刻が多い生徒は保護者の協力もあり、減ってきているようだ。

5) 普通科総合コース

- ・朝読書の意識が全体よりやや低いようだ。
- ・科コースの特徴を生かした授業にたいして生徒の意識が全体より高い。選択科目が関係していると思われる。
- ・欠席遅刻と校内ルールの「できた・少しできた」は全体よりやや低い。自覚はしているようだ。
- ・各種検定資格は全体とほぼ同様の結果であるが、コースの特徴からするともっと自覚を持ってほしいところである。
- ・部活動に対しての意識は低い。活動人数が少ないためであろう。

6) 普通科健康スポーツコース

- ・シラバスを活用した計画的な指導の周知が必要である。
- ・規範意識は若干の低下傾向である。指導の徹底を図りたい。
- ・部活動については 20%が満足する取り組みができていない。何が問題なのかを考えていかなければならない。

7) 教務部

- ・授業に関して教員と生徒の意識の間に隔たりが見られる。生徒の学習状況を小刻みに把握して次の指導に生かしたり、生徒による授業評価を行って指導を見直す等の工夫が必要である。

- ・落ち着いた学習態度をより高めるために、朝読書の時間を充実させるための手立てをさらに講じたい。

8) 進路指導部

- ・キャリア教育については、生徒の要望が高いので、科・コースが実施しやすい形で様々な企画を進路指導部として打ち出していく。インターンシップの体制作りをしていきたい。

9) 生徒指導部

- ・部活動について、意欲的に参加できた生徒は5割であるが、保護者は7割強・教職員は9割であり、差があった。科コースごとにもバラつきがあった。毎週木曜日に「部活動の日」を設定したこともあり、加入率はここ数年9割近い数値をしめしているため、活動環境の整備とともにリーダーの養成が今後の課題と考えている。

10) 生活指導部

「規範意識を高める規律指導」について

- ・生徒の回答結果はできたが約2/3であった。
- ・次の規律指導の段階は生活指導部の主導から、生徒指導部と連携を強め、自ら「律する」生徒会主導にステップアップする時期にあると考えている。

11) 募集業務部

- ・科コースの特色については、教員と保護者の数値が近く、そして高いことから、ある程度は家庭に情報が伝わっているように思う。ただ、授業の理解では生徒の数値が教員とかけ離れているので、見直しが必要だろう。学習面よりも、生活面に関する数値が良いようだ。日頃の声かけが評価されているのだから、今後も粘り強い指導を全体で心掛けたい。

3. 学校諸活動について

1) 調理科

- ・生徒の評価が50%前後。在籍の約30%が調理科生徒ということを含め、学校全体で見直しをしたほうがよいと考える。

2) 介護福祉科介護福祉士養成コース・介護員養成コース

- ・生徒の満足度が5割～6割と、やや低い傾向が見られる。各行事に対して全員が協力

して関わっていけるよう、配慮したい。

3) 普通科情報表現コース

- ・ 全般的に行事への評価があまり高くない。関わり方に工夫が必要

4) 普通科デザインアートコース

- ・ 学校行事に意欲的に取り組み、保護者も協力的で満足度が高い。

5) 普通科総合コース

- ・ 学園祭体育祭の「できた少しできた」が全体より低いのは「もっと積極的に」という反省があるのかもしれない。
- ・ 遠足修学旅行保護者の「できた少しできた」は全体よりやや低い。期待が大きいのもかもしれない。

6) 普通科健康スポーツコース

- ・ 自発的な取り組みが少ない
- ・ 修学旅行や遠足については保護者からの理解が得られている。

7) 進路指導部

- ・ ボランティアは社会人とのかかわりを持つ良い機会であるので、科・コースの専門性に縛られず推奨したい。

8) 生徒指導部

- ・ 学園祭や体育祭、合唱とアンサンブル等行事に意欲的に楽しく参加できた生徒は、6割弱であるが、保護者は8割・教職員は9割であり、差があった。新グラウンドとラボで開催した体育祭は、予想以上に盛況であったので、今後も一体となって行事に取り組める工夫を凝らしていきたい。
- ・ ボランティア活動については、震災直後からトーンダウンしている状況もあり、できたと回答した生徒は昨年からの微増の4割弱にとどまった。生徒会と風紀委員会では、「フィリピン台風緊急募金」を行ったが、震災ボランティアとともに継続して実施していくことが必要と考えている。

9) 募集業務部

- ・ ほかの項目と比べて、生徒の数値が高いことから、行事に積極的に参加し、満足している様子が伺える。教員と同じくらいまで数値を上げられれば尚良い。

4. 高大連携について

1) 調理科

- ・進路の1つとして紹介はしているが、大学側の姉妹校としての認識や受け入れ態勢の改革が課題。

2) 介護福祉科介護福祉士養成コース・介護員養成コース

- ・仙台大学については、はっきりと進学を希望している生徒以外の意識が低いと思われる。早い段階から仙台大学の情報を丁寧に行うようにしたい。

3) 普通科情報表現コース

- ・大学の情報を低学年から発信する必要あり。

4) 普通科デザインアートコース

- ・あまり理解できていなかった。

5) 普通科総合コース

- ・なし

6) 普通科健康スポーツコース

- ・情報はあるが活用しきれていないため達成度は高いといえない。

7) 進路指導部

- ・仙台大での模擬授業を受けることで、ソフト面ハード面で連携を持ち、生徒の進路学習としても効果的であろう。

8) 募集業務部

- ・まだまだ認知度が低く「わからない」の回答が多い。生徒、保護者とも情報発信の不足であるから、進路指導部とも協力していきたい。

5. 家庭生活について

1) 調理科

- ・中学時まで学力の代わりに「手に職つけて」と植え付けられ入学する学科のイメージを払拭することで改善されていく。また、上記4の高大連携の改善にも繋がると考える。

2) 介護福祉科介護福祉士養成コース・介護員養成コース

- 家庭学習の習慣が身につけていない傾向がある。放課後を利用した学習の機会を設けていることも一因にあると思うが、自らが積極的に学習へ取り組める手立てを考えていきたい。

3) 普通科情報表現コース

- 「家庭学習の習慣について」において、生徒の評価が低い。宿題、予習、復習の習慣づけに工夫が必要と感じる。

4) 普通科デザインアートコース

- 家庭での会話があり生活面では落ち着いているようだが、家庭学習の習慣をもっと見につくように強化していきたい。

5) 普通科総合コース

- 基本的な生活習慣の保護者は「できた・少しできた」が全体より低い。保護者の意識に、「反省」が見えてくる。
- 家庭学習に関しては生徒と保護者両方とも全体より低い。学習不足は明らかである。しかし「わかろうとしない」のか「そもそもわからない」のかは考える必要がある。

6) 普通科健康スポーツコース

- 保護者、生徒ともに家庭学習の習慣化がなされていないと 40%の回答があった。情報を発信し、家庭学習の習慣化につなげたい。

7) 教務部

- 家庭学習を習慣化させる取り組みを学校全体で取り組む必要がある。

8) 進路指導部

- 基本的な生活習慣については達成度の高い項目であり、社会生活をしていくうえでのベースであるから、根気強く指導していく。

9) 生活指導部

- 「基本的な生活習慣について」生徒の評価が低いのは、自覚しているが自分で改善できない状況まできている生徒がいる。
- スマートフォンやゲームなどデジタル機器への依存症を、学校、家庭と連携改善してい

く必要があると考える。

10) 募集業務部

- 教員が思っているほど、生徒や保護者は「できている」と思っていないのだから、家庭学習については改善が必要だ。進路動向調査でも、家庭学習はほとんどしない、と回答している生徒が多いので、学力向上のためには家庭学習を充実させる必要がある。